

- 日産自動車、「セレナ」・スズキOEM「ランディ」4WD車のブレーキに不具合があるとしてリコール  
2021年12月8日～2022年2月16日に生産した824台  
ブレーキホースブラケットの車体への溶接作業が一部不適切なため、ブラケットが外れ走行振動によりブレーキパイプが車体に干渉し異音が発生する。そのままの状態で使用を続けると、ブレーキパイプが損傷し液漏れが発生することで、最悪の場合、ブレーキが1系統失陥し制動距離が伸びるおそれがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「スーパーグレート」「エアロエース」「エアロクィーン」の駐車ブレーキ警告灯用スイッチに不具合があるとしてリコール  
2017年7月12日～2021年9月27日に生産した3万7371台  
大型トラック・バスの駐車ブレーキ警告灯用スイッチが不適切なため、エア配管内に発生する凝縮水によってスイッチが正常作動しなくなるものがある。そのため、駐車ブレーキを解除しても、駐車ブレーキの作動状態を正しく表示しない場合があり、Dレンジでの自動変速が不能（マニュアルモードでの変速は可能）になるとともに、EZGO（坂道発進補助装置）とヒルホルダ等が機能しなくなるおそれがある。
- ステランティスジャパン、プジョー「e-208」等計4車種について、空調装置不具合で走行不能となる恐れがあるとしてリコール  
2020年3月17日～2022年5月3日に輸入した1365台  
エアコンのレシーバードライヤーの設計評価が不十分なため、吸水容量が不足しているものがある。そのため、使用過程で電動コンプレッサーのモーターコイルに腐食が発生し、絶縁抵抗が低下。最悪の場合、セーフモードにより警告メッセージが表示されるとともに駆動電源が遮断され、走行不能となるおそれがある。
- スズキ、「ハスラー」「ワゴンR」・マツダOEM「フレアクロスオーバー」について、CVT不具合で走行不能となる恐れがあるとしてリコール  
2019年12月26日～2022年6月16日に生産した6万3108台  
CVTコントローラの制御プログラムが不適切なため、高負荷のキックダウン時等に、変速機能であるスチールベルトが滑り摩耗粉が発生する場合がある。そのままの状態で使用を続けると、摩耗粉による油圧調整弁の摺動不良が起こり油圧不良となることで、最悪の場合、走行不能に至るおそれがある。
- スバル、「WRX」のバックランプが点灯しなくなるおそれがあるとしてリコール  
2014年6月11日～2020年3月25日に生産した2万2841台  
バックランプスイッチを構成する部品の材料が不適切なため、スイッチ内部の接点部に黒色被膜が生成、材料が腐食する場合がある。そのため、そのままの使用を継続すると、バックランプが点灯しなくなる恐れがある。
- 日産自動車、「エクストレイル」（3代目・ハイブリッド）の電動ブレーキブースターに不具合があるとしてリコール  
2015年4月20日～2019年6月12日に生産した5万6608台  
油圧ポンプモーターの部品仕様が不適切なため、頻繁なブレーキ操作を繰り返した場合、ポンプモーター内部の電線が破損。必要油圧が不足し、ブレーキ警告灯が点灯した後に警告音が作動するおそれがある。そのままの状態で使用を継続した場合、ブレーキの効きが悪くなる。
- スズキ「エブリィ」・日産OEM「NV100クリッパー」・マツダOEM「スクラム」・三菱OEM「ミニキャブ」のヒータユニットに不具合があるとしてリコール  
2022年3月21日～5月31日に生産した9011台。  
また、修理で対象となる部品が組付けられた6台と、交換修理用部品として出荷し、組付けられた車両が特定できない部品8個も対象。  
マニュアルエアコンのヒータユニットにおいて、吹出し口切替え機構の構造が不適切なため、高温条件下で吹出し口切替えダイヤルを素早く操作すると、内部部品が外れ、操作不能になる場合があるというもの。そのため、デフロスタが使用できず、前面ガラスの視野を確保できなくなる恐れがある。